

# Japan National Young Water Professionals Newsletter

第5号

発行日 2012年10月2日

## 【特集】 1st English Panel Discussion - Challenges to contribute to "Water" globally -

Takashi Matsumura (Swing Corporation)



An English panel discussion titled "Challenges to contribute to "Water" globally" was held on Jul. 1, 2012 as an unofficial event in Tokyo. Organizing the event was challenging in that everything was conducted in English, however, it eventually turned out to be an extremely rewarding process.

Ms. Makiko Nagata (Bureau of Waterworks, Tokyo Metropolitan Government) and Mr. Takeshi Murakami (KRI International Corp.) provided presentations discussing the difference between waterworks in Japan and those in developing countries.

Ms. Nagata gave a spirited introduction of drinking water treatment technologies and current hot topics in Japan based on her past experience as a staff member in the Kanamachi Purification Administration Office.

Mr. Murakami introduced water systems in

developing countries utilizing his experience in Guatemala, Philippines, and Vietnam. He shared the idea that users' expectation on the service is totally different from that of Japan. "People do prioritize the low tariff rate over the water quality. They are satisfied with the service even if the turbid water outflows from the tap at least the water delivery continues for 24 hours," he said.

Thanks to the contribution of two great speakers and active attendees, an interactive and intensive English discussion was carried out, and last but not least, concluded the Anglophonic night with an "open-minded" and "easy-going" drinking party.

The next event will be hosted by Ms. Junko Tanaka (Metawater Co., Ltd) this autumn. All YWP-Japan members wishing to discuss in English or brush up on their English skills are welcomed!



Fig. 1 At panel discussion.



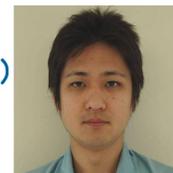
Fig. 2 At 2nd party.

### 目次

<b>【特集】</b>	1
1st English Panel Discussion -Challenges to contribute to "Water" globally - /Takashi Matsumura	
第6回IWA YWP 国際会議への参加報告 /加藤文隆	
<b>【近況報告】</b>	2-3
アメリカ微生物学会年会に参加して / 原本 英司	
調査研究部署でのホットな話題 / 西口 亮	
「第2回シンガポール・日本水道技術シンポジウム」に参加して / 杉野 学	
<b>【Japan-YWPイベント報告】</b>	4
第3回Japan-YWP-全国水道研究発表会 ジョイントワークショップの報告 / 岸田 直裕	
Japan-YWP下水道分野の産官学若手ワークショップ / 小野寺 崇	
<b>【Water Resources】</b>	5
「みず」に関するお薦めの情報 柿本 貴志, 山村 寛, 山下 喬子	
<b>【手紙 ~拝啓若手の君へ~】</b>	6
村上 孝雄	
<b>【私の1日のスケジュール】</b>	6
森谷 直子	
<b>【Japan-YWP運営からのお知らせ】</b>	7
Japan-YWPウェブサイトのリニューアル Japan-YWPロゴマークの募集 今後の予定 入会方法と問い合わせ先 編集後記	

## 【特集】 第6回IWA YWP 国際会議への参加報告

加藤 文隆(新日本製鐵株式会社)



2012年7月10日~13日、ハンガリーのコルヴィヌス大学にて開催された6th IWA International Conference for Young Water Professionalsに参加致しました。会議の登録者数は175名、発表件数115件、42カ国からの参加がありました(Fig. 3)。参加者は非常にバラエティ豊かである一方で、YWPということで35歳以下の若手層が中心であったため、年が近い人同士で打ち解けるのが早かったように感じました。

発表内容は生物学的処理、工場排水処理、嫌気性処理、上水供給、人工湿地、地下水、水マネジメント・政策、微量汚染物質、水理学、排水処理モデリング等がありました。自分は製鐵所排水の活性汚泥処理にASMを適用した事例として、"Application of modified ASM to Coke Oven Wastewater treatment."という題目で口頭発表させて頂きました。参加者は議論好きな人が多く、質疑が活発に行

われており、夜は一緒になって飲みながら、研究・文化・政治など、様々なテーマで議論しました。意見を持って話さないといけませんので、拙い英語ながら積極的に話しましたが、自分の英語力を上達させる必要性を改めて痛感致しました。

さて、国際会議の楽しみの一つと言えばGala Dinnerですが、有名なハンガリーワインであるトカイワインを堪能しました。また、余興としてはダンスがあり、始めは見るだけかと思っていたら、いつの間にか電車ごっこのような列を作られて全員参加で踊るという、シャイな日本人には少し辛い(?)展開になっていました(Fig. 4)。

今年はIWA World Water Congress & Exhibition(釜山)や、第4回IWAアジア太平洋YWP国際会議(東京)もあり、ネットワークを積極的に広げていきたいと思っておりますので、皆様よろしく願い申し上げます。



Fig. 3 会議参加者.



Fig. 4 Gala Dinnerにて...

## 【近況報告】

アメリカ微生物学会年會に  
参加して

原本 英司(山梨大学)



## ◇世界中の微生物学者が参加

2012年6月16～19日にサンフランシスコで開催された「第112回アメリカ微生物学会年會 (asm2012)」に参加してきました。位置付けとしてはアメリカの国内学会なのですが、海外からの参加者も多く、さながら国際学会のようです。ポスター発表が3000件以上と非常に規模の大きな学会で、事前にプログラムを十分チェックしておかないと、どこを見て回れば良いのか途方に暮れます。

私が所属している国際流域環境研究センターでは、主にアジア諸国の水問題の解決を目指した研究に取り組んでいます。今回の私のポスター発表の演題(邦訳)は「ネパール・カトマンズ盆地の水環境における水系感染性の病原微生物の存在実態調査」で、糞便汚染を受けた地下水を飲用しているカトマンズ都市部での病原微生物の水系感染リスクを明らかにすることを目的としています。他のポスターに自分の論文が引用されていたり、「君の論文をたくさん読んでいますよ」と声を掛けて貰ったりすると、研究へのモチベーションが高まります。

## ◇海外で頑張る仲間との再会

今回、アメリカでポスドクとして働いている大学院時代の同級生や後輩と再会し、地元で評判のレストランで楽しいひと時を過ごすことができました。色々と苦労しながらも充実した毎日を過ごしている様子を聞くとこちらも刺激を受けます。普段は会えない仲間の元気な姿を見ることができるのも海外の学会に参加する醍醐味の一つです。

今回は2013年5月18～21日にコロラド州デンバーで開催されるそうです。アブストラクトの〆切は例年1月頃ですので、興味のある方は是非ご参加ください。



Fig. 5  
サンフランシスコの名物・  
ケーブルカー



Fig. 6  
参加者で賑わう学会会場。

## 【近況報告】

## 調査研究部署でのホットな話題

西口 亮(名古屋市上下水道局)



地方自治体の職場というのは日々、窓口か現場の対応に追われているような騒々しいのがほとんどですが、私が現在所属しているのは上下水道技術に関する調査研究を黙々と遂行している部署です。今回はそんな調査研究部署でのホットな話題について私が行っている業務を中心に紹介したいと思います。

調査研究とはいっても、既往の技術や考え方を名古屋型に変身させていくのがメインで、最近だとMBR実証実験やN<sub>2</sub>O排出抑制、雨水流出抑制、施設の長寿命化、おいしい水といったテーマに取り組んでいます。その中でも私がメインで担当しているのは、「土木構造物の長寿命化」と「日本一おいしい水の実現」です。

土木構造物の長寿命化については、建設当初からLCCを考慮しながら適切な時期に適切な維持管理を行うことにより、構造物が持てる力を100%出し切ることだと考えています。ここでFig. 7をご覧ください。これは犬山取水場の沈砂池内部です。一見変わったところはありませんが、写真右上の天井部の鉄筋が見えているのがわかります。これは鉄筋が錆び、被りコンクリートが剥落しているもので、早急に措置してやる必要があります。このような劣化を踏まえ構造物の健全度を評価し、適切な維持管理手法を検討しているところです。

次においしい水ですが、ご存じのとおり本市は水質に恵まれた木曽川を水源としています。そこで、「日本一おいしい水を目指そちゃ〜」という掛け声のもと、残留塩素の低減化や夏の水温上昇防止に取り組んでいます。Fig. 8をご覧ください。これは配水管を様々な条件(深度・口径・材質等)で埋設し、それぞれの管を流下した後の水温変動を調査したものです。この結果を踏まえ、おいしい水の提供方法を検討しています。

以上、簡単に紹介させていただきました。最後に私たちが実施している調査研究が市民の豊かさに繋がり、ひいては全国に発信できれば幸いと思いながら、日々、コンサルさんと共に取り組んでおります。



▲ Fig. 7 犬山取水口沈砂池



◀ Fig. 8  
実験用配管の埋設状況

## 【近況報告】

「第2回シンガポール・日本  
水道技術シンポジウム」に参加して

杉野 学(株式会社 総合水研究所)

2012年7月5日にシンガポール公益事業庁(PUB)と水道技術研究センター(JWRC)との共催でシンガポールにて開かれた「第2回シンガポール・日本 水道技術シンポジウム」に参加してまいりました。第1回目は同じくシンガポールで昨年9月に行われ、汚泥処理をテーマに行われました。昨年9月から今年3月までPUBのラボにて研修を受ける機会を頂き、幸運にも第2回目のシンポジウムにも参加することができました。

今回のテーマは原水悪化への対応と高度浄水処理でした。オープニングスピーチでは、厚生労働省水道課の石飛博之課長が英語で挨拶され、昨年3月の津波・震災被害への支援に対するお礼、今年5月に関東地方で起きた水道水中のホルムアルデヒド問題について触れられ、最後に、今後2年おきにこのシンポジウムが開かれることが宣言されました。続いて水道技術研究センターの藤原理事長より、日本において高度浄水処理が発展してきた経緯と膜処理技術について発表がありました。シンガポール側から4題、日本側から6題の発表が行われ、研修中に大変お世話になったWater Research Analytical LaboratoriesのZhang博士が「異臭化学物質の検知と処理」について、また、一度研究室を訪問させていただいたシンガポール大学のHu教授が「微生物の殺菌および汚染物質除去を目的とした適応性の高いUV/H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>システムの試験調査」について発表をされました。日本からは京都大学名誉教授の松井三郎先生、(株)神鋼環境ソリューションの石山明氏、阪神水道企業団の長塩大司氏、水ing(株)の恩田建介氏、メタウォーター(株)の青木伸浩氏が日本の最新の水処理技術を発表されました。シンガポール国際水週間(SIWW)の最終日ということもあり、会場には海外からの参加者の姿もあり、活発な議論が行われました。シンポジウム終了後には、Zhang博士からの取り計らいで、Water Research Analytical Laboratories内を案内していただきました。久しぶりにラボ内を見学でき、懐かしく思いまし



た。

PUBのラボでの研修でもジェオスミンと2-MIBを中心としたカビ臭の問題にかなり力を入れていることが分かりました。水道水の臭気や味の問題は、消費者のクレームに強く影響を与えるため、優先的な研究テーマの一つとなっております。微生物学ラボとバイオテクノロジーラボで、それぞれ放線菌類と藍藻類を対象に、分子生物学的手法を用いたカビ臭産生の原因菌の特定の研究が行われておりましたが、このプロジェクトは最近始まったそうです。ここ2、3年の間に貯水池でのカビ臭が高濃度になったことが要因のようです。また、藍藻類とその代謝物に関しては、シンガポール大学や民間研究機関とも共同で行っており、私も2月に行われたプロジェクト共同ミーティングに参加させていただきました。このプロジェクトのキーパーソンはオーストラリアの研究者の方で、10~15年前にオーストラリアで問題となっていたマイクロキスティンが、現在シンガポールで問題となっており、非常に興味深いと話されておりました。将来的にはシンガポールにおける貯水池での藍藻類に関するガイドラインの作成の助言を行う狙いがあるようです。日本は1980年代頃にカビ臭が問題となり、高度浄水処理や原因生物の同定等の研究開発がさかんに行われ、この問題を解決してきた実績があります。今後、PUBと日本の研究機関が積極的に共同研究を行い、両国の強いつながりがさらに強まることを願っております。



Fig. 9 シンポジウム会場の様子



Fig. 10 無機化学ラボの様子.

## 【Janan-YWP イベント報告】

### 第3回 Japan-YWP 全国水道研究発表会ジョイント ワークショップの報告

岸田 直裕(国立保健医療科学院)



2012年5月16日(水)に第63回全国水道研究発表会第7会場(島根県松江市くにびきメッセ)にて、第3回Japan-YWP-全国水道研究発表会ジョイントワークショップが開催されました。当日は、水関連の研究者、事業者関係者、民間企業若手社員など総勢50名近くの出席者があり、盛況なワークショップとなりました(Fig. 11)。

今回のワークショップでは3名のYWPメンバーより、以下の通り講演がありました。

- (1) 東日本大震災における水道施設の被害と今後の地震対策(コンサルタントの視点から)／成田 健太郎(日本上下水道設計)
- (2) 施設整備と市民との情報・課題の共有化／瀬川 進太(横浜市水道局)
- (3) ヨーロッパでの水処理研究に携わって／白崎 伸隆(北海道大学大学院 助教)

当日の講演資料については、Japan-YWPのメーリングリストを利用してメンバー宛に以前(岸田より6/1に)送付しておりますので、興味のある方はぜひご覧下さい。

またワークショップ後には意見交換会も開催いたしました。こちらには約30名が参加し、盛況な会となりました。個人的には、同年代の様々な分野・立場の若手と情報共有できる貴重な機会であると考えておりますので、本番のワークショップ同様に意見交換会(裏本番!?)にも力を入れていきたいと思っております。

Japan-YWP-全国水道研究発表会ジョイントワークショップについては、来年度も全国水道研究発表会の会場にて開催する予定としておりますので、今回参加できなかった方も次回はぜひ会場まで足をお運びいただければ幸いです。

今後もYWPメンバーの交流を促進できるようなセミナー等を企画していきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



Fig. 11 会場の様子.

### 第1回 Japan-YWP 下水道分野の産官学若手ワー クショップの報告

小野寺 崇(国立環境研究所)



2012年7月24日(火)にJapan-YWP企画の「下水道分野の産官学若手ワークショップ」が、第49回下水道研究発表会会場(神戸国際会議場)にて開催されました。本ワークショップでは、下水道分野の若手専門家による講演とディスカッションを行うとともに、産官学の垣根を越えて、若手参加者のネットワークを構築することを目的としました。

本ワークショップの講演では、私から「途上国向け下水処理技術の実証試験～インド長期滞在記を添えて～」の題でインドの下水処理場での住み込み実験の経験を発表し、土木研究所の日高平氏から「地道な下水道研究」の題で下水道研究における産官学の連携のポイントなどを鋭く指摘していただき、さらに(株)東京設計事務所の真田伸行氏から「下水道普及率と尿・浄化槽汚泥の処理について」の題で処理方法の最適案の抽出プロセスをご丁寧に説明いただき、JICAの清水浩二氏から「シリアにおける下水道人材育成プロジェクトの経験」としてシリアの国事情から下水道事情までを美しい写真つきで発表していただき、国土交通省の茨木誠氏から「下水道分野の海外展開」の題で水ビジネスの国際展開の現状について俯瞰的かつ具体的な内容の発表をいただきました(Fig. 12)。全体を通じて、国際的でバラエティに富んだ講演が行われたと思います。

今回は下水道関係では初のJapan-YWPイベントにもかかわらず、総勢30名を超える参加者に恵まれました。また、多くの方にディスカッションに参加して頂き、とても盛況なワークショップとなりました(Fig. 13)。また、ワークショップ後の懇親会には、20名を超える参加者による活発な意見交換が夏の夜空の下で行われました。

今後も産官学の垣根を越えたネットワークづくりを通じて、下水道分野におけるYWPメンバーの交流を促進し、若手のネットワークづくりに貢献させていただければと思います。



Fig. 12 発表の様子.



Fig. 13  
会場の様子.

## 【Water Resources】“みず”に関するお薦めの情報

### 「水マネジメントにおけるソフトパス・アプローチ “水を救う”テクニック」のご紹介

(オリバー・M.ブランデス, デイビッド・B.ブルックス, ステファン・ゲールマン:編, 吉村 和就:日本語版監修, 鈴木理恵:翻訳/産調出版(株))

柿本 貴志 (埼玉県環境科学国際センター)



70億人を越えた人類がなお増加し続けるなか、必要とされる水資源を確保することは大きな課題となっています。水資源の確保というとダム開発などの手法がまず浮かんで来ますが、本書ではそのような考え方に警鐘を鳴らし、持続可能な生態系の確保を前提としたソフトパス・アプローチの必要性を述べています。ソフトパス・アプローチを一言で定義するのは難しいのですが、水の効率的な利用に加えて、ある目的を達成するためになぜ水を使わなければならないのか、水以外で代替できないのか？と問い、水需要の削減や合理的な水利用をしていこうというものです。本書は三部構成で、第一部では他の手法と比較しながらソフトパス・アプローチの概念を説明し、第二部では同手法による水需要削減効果を示しています。第三部ではソフトパス手法を水管理に採用する際の課題を整理し、最後に先進国や途上国における水制度におけるソフトパスの取り入れられ方について考察しています。最近の話題も多く盛り込まれているので、興味のある方はご一読をお勧めします。

### 「都市・地域 水代謝システムの歴史と技術」のご紹介

(丹保憲仁:著/鹿島出版会)



『2050年までの40年間、水代謝システムの問題の解決に向けて我々は何すべきか』

7月に鹿島出版会から出版された「都市・地域 水代謝システムの歴史と技術(丹保憲仁著)」は、その問いに答えるために役に立つ古今東西・温故知新の情報の他、丹保先生から水技術者に向けた提言が至る所に散りばめられています。

1985年に技報堂より出版された丹保先生と小笠原さんの共著「浄水の技術」は、私が浄水分野の研究を始めるきっかけになった本であり、これまでの人生の節目に何度となくこの本を開き、感化されてきました。この本が発刊されてからもうすぐ30年。この間に科学技術がめざましく発展し、地球人口が100億人に迫ろうとする一方で、環境収



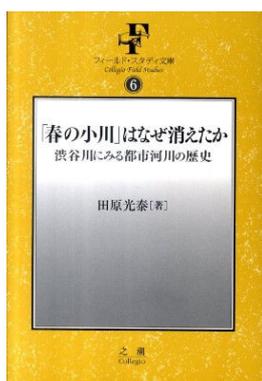
山村 寛 (中央大学理工学部)

容能力が限界に迫り、エコシステムインフラが崩壊しかけています。この危機に対して、我々はどう答えるか。また30年後の世代に何を残すのか。これらの問いに対し本書では「後近代システムへの移行」や「環境湖」などの斬新なキーワードを挙げながら、30年先、80年先の有るべき水代謝システムにまで言及し、現システムからの変革を呼びかけています。

この本は、我々若い技術者の“気概”を駆り立てると共に、水技術者としての“責任”を認識するための良いカンフル剤になろうと思います。今後は「浄水の技術」に代わるバイブルとして、この本が私の枕元に鎮座することになりそうです。

### 『春の小川』はなぜ消えたか 渋谷川にみる都市河川の歴史」のご紹介

(田中光泰:著/之潮)



まず初めにタイトルでこの本を手に取りました。

本書では、渋谷川およびその支流(・・・ちなみにそのうちの一つ、河骨川は童謡「春の小川」のモデルになったと言われています)について、街区整備に伴う流路変更や暗渠化といった変遷、廃止による小川の消失の歴史を辿る内容です。本文中では、昭和初期をはじめとした小川、現在でも見られるそれらの名残を写真で見ることができます。

この春に下水道の世界に飛び込んだ私ですが、思わぬところで渋谷の下水道の始まりを知ることが出来ました。巻末には地図が付属しているので、学生の頃によく訪れていたあの場所が小川だった、あの池は実は・・・など驚くと共に、小川の暗渠化、下水道敷設への流れを楽しく学ぶことが出来た一冊でした。

## 【手紙 ～拝啓若手の君へ～】 (Y)夢の技術を、(W)若者の、(P)パワーで！

先日、「はやぶさ」プロジェクトを率いた川口淳一郎博士の講演を聞く機会がありました。何度もの危機を乗り越えた「はやぶさ」の劇的な帰還は大きく報道され、また、映画化もされたので、皆さんも良くご存知だと思います。

私が講演を聞いて何よりも感嘆したのは、「はやぶさ」がオーストラリア上空で大気突入して燃え尽きた時に、川口博士が「はやぶさ」を悼む短歌を詠んでいたことでした。博士の「はやぶさ」を単なる機械を超えた一つの人格と捉えた「はやぶさ」への熱い想いと長年の夢の実現にかけた情熱には心を動かされました。

若い頃に抱いていた技術者としての夢は、現実の社会では、法制度、行政制度、コストを始めとする様々な現実的要因のヤスリでゴリゴリと削られ、角が取れて、最後にはこじんまりとしたものになってしまうことが多いのです。もちろん、現実とうまく折り合いをつけながら仕事を進めることが大変重要であることは言うまでもありませんが、若い皆さんには、その中でも夢をあきらめず、挑戦の機会を虎視眈々と伺うという気持を持ち続けて欲しいと思います。仮にそれが青臭いと呼ばれても、青臭いロマンチストでいられるのは若者の特権であるし、そういった意識が結果的



村上 孝雄(日本下水道事業団 理事)

に技術の大きな進歩をもたらすのです。

さて、私は下水道技術者として、水処理等のハード技術に関する研究が近年減少傾向にあることに一抹の寂しさを感じています。目覚ましい進歩を遂げている分子生物学的

手法により蓄積されつつある膨大な知見とエンジニアリングを結びつけた画期的なハード技術の開発を期待しています。現在、水ビジネスの海外展開が脚光を浴びていますが、私は、日本は単なるコスト競争ではなく、技術の品質と信頼性の高さで勝負すべきと思っています。オンリーワン技術の開発は、海外展開において強力な武器となるでしょう。

最後になりましたが、最近のYWPの活発な活動状況を見るにつけ、本当に頼もしく感じます。今後ともYWPの皆さんが、水の世界に新しい風を吹き込まれることを大いに期待しております。

	<ご略歴>
昭和50年	東京大学都市工学科卒
	日本下水道事業団入社
昭和62年	建設省土木研究所へ出向
平成8年	日本下水道事業団
	技術開発部技術開発課長
平成13年	日本下水道事業団
	技術開発部総括主任研究員
平成20年	日本下水道事業団技術開発部長
	東京大学大学院附属水環境制御研究センター客員教授
平成22年	日本下水道事業団理事

## 【私の1日のスケジュール】

はじめまして。2012年からJapan-YWPの運営委員をさせていただくことになりました森谷(もりたに)と申します。どうぞよろしく願いいたします。今回は、年に数回ある海外出張前のとある1日のスケジュールを紹介させていただきます。



- 7:30～9:00 起床・朝食・朝の支度: 朝起きる時間は前日寝る時間にもよりますが、起きるのがどれだけ遅くても朝ごはんだけは欠かせません。たまにアイスクリームに手を出して、朝からフルコースにすることも……。
- 9:30 出社: エレベーター前はいつも長蛇の列ですが、がんばって並びます。

- 午前中 業務: 午前中締切の仕事を抱えた時は、階段を駆け上がり降りしてとにかく関係者へ直接相談に。この日は、来週出席する予定の国際会議への対応についての調整です。同時に、午後1時に司会を担当する会議についても最終確認します。
- 12:00～13:00 お昼: 天気がいよいよ、気分転換も兼ねて、日比谷公園でランチです。
- 13:00～19:00 業務: 足を使って調整を終えたら、次の調整に。国際会議の会議文書や出張先でのスケジュールなども確認します。14時からの会議は、議論がうまく盛り上がりつつ終了。職場に戻って、2週間

## 森谷 直子(環境省)



きてもらっていたインターン生の発表資料を最終確認し、課内で発表会を開催。質疑応答を経て無事終了。楽しんで仕事体験してもらったかな。

- 19:00～19:30 夕食: この日は同期の飲み会があるため、軽く食事を済ませます。
  - 19:30～21:00 業務: 集中力がなくなりつつありますが、飲み会目指してもう一息です。
  - 21:00～23:30 同期飲み会: 同期は仲がよく、いろんなサイズの飲み会が開かれます。みんな業務終了の時間が遅いので、始まりも遅くなりがちですが、疲れ知らずで元気に集まります。
  - 23:30～ 就寝準備: 遅い時間でも、なるべくお風呂につかって疲れをとるようにしています。
  - 1:00 就寝
- <おわりに> 特に出張前は、1日1日があっという間に過ぎていきますが、準備をがんばった分、出張先での経験は充実したものになっています！



国際会議にて。



帰国までの数時間でパリを散歩。

## 【Japan-YWP運営からのお知らせ】

## Japan-YWPウェブサイトのリニューアル

Japan-YWPウェブサイトを2012年4月からリニューアルしました(<http://www.japan-ywp.net/>)。ウェブサイトのコンテンツを独自に用意し、更新しております。迅速に情報を提供・共有し、Japan-YWP会員間の交流の一助になればと思っておりますので、是非チェックして下さい。

IWA国内委員会のウェブサイト(<http://www.iwa-jnc.jp/ywp.html>)には、Japan-YWPのトップページを残しておりますので、そちらからJapan-YWPウェブサイトへアクセスすることもできます。



## Japan-YWPロゴマークの募集

現在、Japan-YWPロゴを絶賛大募集中です。

会員の皆さんから頂いたイメージを基にJapan-YWPロゴを作成し、今年12月に開催される第4回IWAアジア太平洋若手水専門地域会議でお披露目できたらと考えております。宛先と締切は下記のとおりです。

会員の皆さんからのご意見お待ちしております。参考までに、IWA-YWPロゴも下記に示します。

宛先: nakazono-h@tokyoengicon.co.jp  
(Japan-YWP広報委員 中園隼人)

締切: 2012年10月7日(日)

## ▼IWA-YWPロゴ



Young Water  
Professionals

## 今後の予定(YWP活動予定)

## (1) 第9回水道技術国際シンポジウムJapan-YWP企画セッション

2012年11月21日(水)に横浜で、Japan-YWP企画セッション「Colorful Young Water Professionals in Japan」を開催致します。

- 日程: 2012年11月21日 10:45-12:15
- 場所: パシフィコ横浜 メインホール
- 使用言語: 英語
- \* 別途、水道技術国際シンポジウムへの参加登録が必要です。

## (2) 第4回IWAアジア太平洋若手水専門地域会議(4APYWP)

2012年12月7日(金)~10日(月)に東京で、第4回APYWPを開催致します。

- 日程: 2012年12月7~10日

- 場所: 東京(日本科学未来館)
- 使用言語: 英語
- 後援: 日本水環境学会, 日本水道協会, 東京都水道局, 日本下水道協会, 東京都下水道局
- \* 参加登録・スケジュール他は会議ホームページを参照してください。  
<http://www.ce.t.kanazawa-u.ac.jp/~honda/apywp2012/>

(3) その他 以下のセミナーに関しては、日程が未定です。詳細が決まりましたら、適宜メーリングリストでお知らせ致します。

- イブニングセミナー(東京/日本語)
- 総会兼セミナー(東京/日本語)

## 入会方法と問い合わせ先

Hello!  
Japan-YWP

## ■入会方法

随時、会員募集中です。会員要件は、大学・研究機関、官公庁、上水道・下水道事業者、民間企業などに所属する水関連の若手・学生(原則35歳以下)とし、専門内容やIWA会員であることの有無は問いません。また、年会費等は不要です。入会希望の方は、①所属、②氏名、③生年月日、④E-mailアドレス、⑤専門分野を明記の上、以下のアドレスまでお気軽にお申込みください。

宛先 [japanywp@gmail.com](mailto:japanywp@gmail.com) (担当: 真砂佳史, 二宗史憲)

## ■お問合せ

春日郁朗助教(代表, 東京大学大学院)  
[kasuga@env.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:kasuga@env.t.u-tokyo.ac.jp)  
佐藤久准教授(副代表, 北海道大学大学院)  
[satoh@eng.hokudai.ac.jp](mailto:satoh@eng.hokudai.ac.jp)

## 編集後記

2012年度もおよそ半年が過ぎました。本年度も、Japan-YWPのイベントは活発に行われています。下水道研究発表会において初めて下水道分野の産官学若手ワークショップを開催し、新たな分野へと活動の範囲を広げようと試み、Japan-YWPがより発展していくことが期待できる結果となりました。これらのイベントを通じ、より多くの方々との交流を

図っていただけると考えておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

最後に、原稿や写真をお寄せいただきました皆様、お忙しい中ご協力頂き、誠にありがとうございました。

(Japan-YWP広報委員)

Japan National Young Water Professionals Newsletter Vol.5

発行: 2012年10月2日  
発行者: Japan National Young Water Professionals(代表 春日郁朗)  
編集: Japan National Young Water Professionals広報委員  
ホームページ: <http://www.japan-ywp.net/>